

第 41 回高知女子大学看護学会の報告

平成 27 年 7 月 18 日(土)に、『看護を可視化する方略』をテーマに、第 41 回高知女子大学看護学会を、高知県立大学池キャンパスにて開催しました。台風の影響で開催が危ぶまれましたが、当日は台風も通過し、卒業生・修了生をはじめ県内外の看護職者 221 名の参加を得て、活気ある学術集会となりました。

講演

午前中は、共立女子大学看護学部教授 加藤令子先生に、「看護の可視化がもたらすものー災害時の要配慮者を対象としたパッケージ開発の研究から見てきたものー」というテーマでご講演いただきました。

加藤先生は、2007 年より障害のある子どもが自然災害に備えるための研究を継続されております。先生が開発された災害セルフケアパッケージの活用によって、子どもや教員、保護者の認識が変わり、子どもの生きる力を高めることにつながったことなど、研究成果を発信することを通して、看護を可視化した成果などお話しいただきました。

参加者の方からは、「看護の活動の幅広さを感じた」「日ごろの自分の取り組みに置き換え新たな気づきが得られた」「子どものセルフケア能力を信じて向上させる大切さを学んだ。避難訓練は教員がどう動けたかという反省ばかりだったが、避難訓練や日常の中で子どものセルフケア能力を評価することが必要だと感じた」「研究をいかに政策につなげるか、大変貴重な例をご紹介いただき、是非活用したいと思う」などの感想がよせられました。



加藤令子先生 講演会の様子

ワークショップ

午後からは以下の7つのワークショップが開催されました。

- 「子どもの看取りに直面した家族を支える看護の可視化 ～実践－研究からケアガイドラインを創造する～」
- 「地域の健康課題と看護支援を可視化する方略～大学と行政の協働による取り組み～」
- 「看護をつなぐ急性期病院の取り組み～せん妄ケアに焦点を当てて～」
- 「身体抑制の調査に対する取り組みから」
- 「効果的な糖尿病教育プログラムを目指して～支援の可視化とチームでの共有化～」
- 「看護の実践を語ることで気づく自己の成長」
- 「特別支援学校における災害の備えへの介入研究～行政機関との協同・連携の重要性～」

ワークショップにも多くの方が集まり、看護の可視化について、活発なディスカッションが行われました。参加者からは、「色々と学べて今後に活かしたいと思う」「他病院の実践を知ることができ参考になった」「自分の看護を語る機会になった」「他職種の専門性を大切にしながら、看護の専門性を発揮していく大切さを感じました」「自分の体験を重ねながら、今置かれている立場からどう介入できるのか考えることができた」などの感想をいただきました。



ワークショップ・「地域の健康課題と看護支援を可視化する方略～大学と行政の協働による取り組み～」

総会

大学の食堂にてランチョン形式で行われた総会には、50名の学会員に参加いただきました。博士1期性中西純子氏と学部34期生池添志乃氏が議長として選出され、平成26年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告が行われ、承認されました。続いて、審議事項として、役員組織案、平成27年度事業計画案、予算案などについて話し合われ、いずれも承認されました。